

**WEEKLY SIGNAL**

2019年6月14日(金) 1478号

上田八木短資株式会社

**来週の市場とレート予想**

	6/17(月)	6/18(火)	6/19(水)	6/20(木)	6/21(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 100	トシ	△ 1,000	△ 1,000	△ 2,000
財政他	+ 3,200	+ 2,000	△ 24,000	+ 81,000	+ 3,000
資金需給	+ 3,300	+ 2,000	△ 25,000	+ 80,000	+ 1,000
主要要因	国債償還(2年) 国庫短期証券発行・償還(3M)		国債発行(5年)	国債償還(5年・10年) 国庫短期証券発行・償還(1Y)	
オペ期日	CP等買入 △ 200 社債等買入 △ 100 補充供給 + 100		貸出支援 △ 21,400		
オペスタート	国債買入 + 6,000 ETF買入 + 700				
(日本)			日銀金融政策決定会合(20日まで) 貿易収支(5月)	対外・対内証券投資(6月9日-15日) 全産業活動指数(4月)	消費者物価指数(全国、5月)
(海外)	米 ニューヨーク連銀製造業景況指数(6月) 米 NAHB住宅市場指数(6月)	米 FOMC(19日まで) 米 住宅着工件数(5月) 欧 ユーロ圏CPI(5月)	米 FOMC声明発表 英 CPI(5月)	米 新規失業保険申請件数(6月15日終了週) 米 フライデルフアイ連銀製造業景況指数(6月) 欧 EU首脳会議(21日まで) 欧 ECB経済報告 欧 ユーロ圏消費者信頼感指数(6月)	米 中古住宅販売件数(5月) 欧 ユーロ圏総合PMI(6月) 欧 ユーロ圏製造業PMI(6月) 欧 ユーロ圏サービス業PMI(6月)

**【インターバンク市場】**

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.020
SPOT 3M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

**<インターバンク>**

日銀当座預金残高は、週初392兆5,600億円から始まった。週末には年金定時払いを主因に大きく増加し、400兆2,600億円で越えた。無担保コールON物は、積み期間の最終週であったものの、ビッドサイドの取り上がる動きは見られず、落ち着いた展開となり、10~13日まで同加重平均金利は△0.058%~ △0.056%で推移した。積み最終日となる14日は新積み期間にかかる3日積みのON物であったため、一段と弱い地合となり、△0.061%となった。ターム物は1W~2W物を中心に出合が見られ、一部△0.06%台のビッドに対して、ギブンされる動きも見られた。来週は国内では、日銀金融政策決定会合(19、20日)、海外では、FOMC(18、19日)、EU首脳会議(20、21日)などが予定されている。

**<CP>**

今週の入れ発行総額は約7,400億円、週間償還額(約7,500億円)に対しほぼ横ばいであった。発行市場は、先週同様、複数の業態から大型発行が散見されたが案件数は少なく落ち着いたマーケットとなった。市場残高は13日時点で約20兆5,900億円となり、先週末(20兆6,285億円)から減少した。発行レートは、投資家の運用ニーズに変わりなく、0%からマイナスでの出合いであった。11日にオファーされたCP等買入れオベは、四半期末を控え、ディーラーが売却に慎重になったことから按分レート△0.003%・平均落札レート△0.002%と、ともに前回(按分△0.001%・平均落札0.001%)比低下した。来週の償還総額(6/17~6/21)は、1兆1,700億円程度となっている。発行市場は、5・10日発行が見込まれるものの、大型償還の案件も多く、償還超を予想する。発行レートは、投資家は0%以上であれば運用ニーズが強く、引き続きマイナスから0%近辺での出合いとなる。

**【オープン市場】**

CP3M(a-1+)	△0.005 ~ 0.000
TDB 3M	△0.180 ~ △0.130
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

**<TDB>**

今週の国庫短期証券市場は、先週と横ばいの地合。14日入札の3M838回債は、最高落札レート△0.1407%(前回債△0.1363%)、平均落札レート△0.1483%(同△0.1443%)と前回債から小幅低下に留まった。セカンダリー市場では3M物で△0.140%程度での出合が見られた。来週は19日に1Y、21日に3Mの入札が予定されている。

**<レポ>**

足許GCは週初△0.09%~△0.095%で始まった。12日受け渡しは△0.10%近辺から出合いが付き始めたが、後場△0.13%~△0.14%までレートが低下。新しい積み期間にかかる14日受け渡しは前場△0.13%近辺後場△0.105%~△0.11%まで上昇した。SC取引では5年139回債のbidが多く、国債買入オベがオファーされた11日受け渡しでは△0.30%台前半の出合いが見られた。10年353回債は、週を通して△0.10%台半ば~△0.20%近辺で取引された。その他2年399・400・401回債、5年137・138回債、10年339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352・354回債、20年164・165・166・167・168回債、30年59・60・61・62回債、40年9・10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。